

# 安達太良火山1899-1900年噴火の経過と特徴\*

Sequence and characteristics of the 1899-1900 eruption of  
Adarata volcano, NE Japan

地質調査所\*\*

Geological Survey of Japan

安達太良火山は分散した複数の活動中心を持つ火山群であるが、その最新期の活動は山体中心部にある沼ノ平火口で起こり、水蒸気爆発を中心とした活動が繰り返し起こっていたと考えられている<sup>1)</sup>。江戸時代以前の活動については確実な記録は残っておらず、規模の大きい噴火は無かったと考えられる。明治以降では1899-1900年（明治32-33年）と1950年（昭和25年）に活動の記録がある。1950年の活動は高さ50mの噴煙を上げただけのごく小規模な爆発である<sup>2)</sup>。

1899-1900年の活動については、金原信泰<sup>3),4),5),6)</sup>及び井上禧之助<sup>7)</sup>が噴火当時の調査記録を残している。また震災予防調査会報告第35号<sup>8)</sup>には福島県による報告等がまとめられている。それらのうち金原の報文の主要部と福島県の報告の主要部は「日本噴火志」<sup>9)</sup>に再録されている。以下ではこれらの資料に基づいて記述する。

## 1. 経過

1899年初めから沼ノ平での噴気活動が活発化し、8月24日午後11時半頃に最初の爆発が起こった。爆発はそれまで噴気をあげていた火口で起こり、火口周辺に土砂を堆積したり火口周辺の硫黄を燃焼させたりしたが、翌日の夜には鎮静化した。次の活動は同年11月11日頃から同じ場所で始まり、11月12日午後7時半頃にかなり大きな爆発があった。当時、沼ノ平の周辺では硫黄の採掘が行なわれており、噴石により沼ノ平火口内にあった硫黄鉱山の建物に少しの被害があった。その後も鳴動は盛んであったらしいが活動の詳細は不明である。

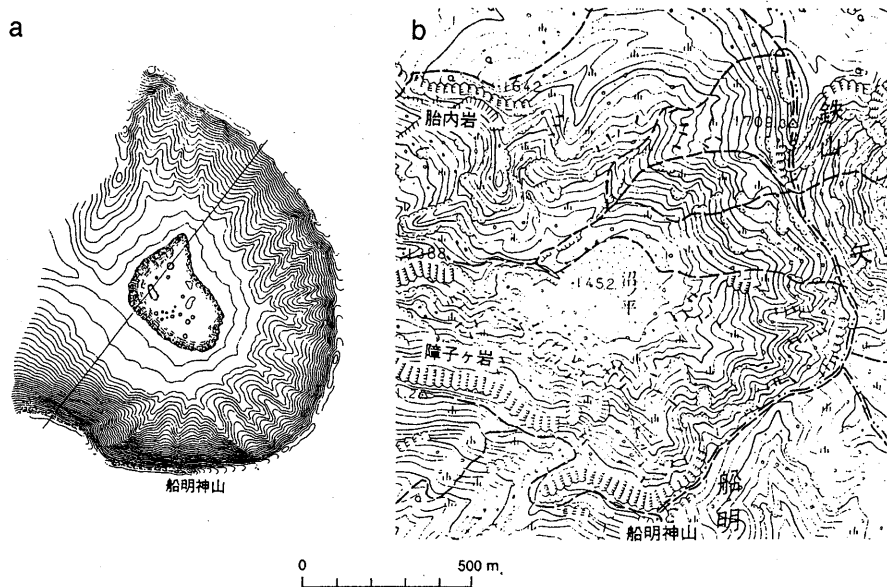
翌1900年7月17日午後4時頃から6時半頃にかけて大きな爆発が3回程度起こり、沼ノ平の火口底に長径300m、短径150m、深さ40mの新噴火口が形成された（第1図）。直前の活動の様子については確かな資料が無い。西方の沼尻温泉や中ノ沢からの観察では破裂音や噴煙は3ないし4回起こったという。2回目の爆発で逃げ出して命拾いをしたという硫黄鉱山の少年の証言<sup>7),8)</sup>もあるので、最後の爆発が最も規模が大きかったと考えられる。火口の周辺では最大で5-15mの厚さで噴出物が堆積した。この噴火による降灰は、東方には15-20km離れた二本松、松川、針道まで、西方には2km余り離れた白糸の滝付近まで達した。

---

\* Received 13 Dec., 1996

\*\* 坂口圭一

Keiichi Sakaguchi



第1図 1900年の噴火口地形 (a ; 等高線間隔は 5 m) と現在の地形 (b ; 等高線間隔は 10m) の比較

1900年の噴火口地形は井上 (1900) による (等高線間隔は 5 m)。

Fig.1 Topography of the Numanotaira crater.

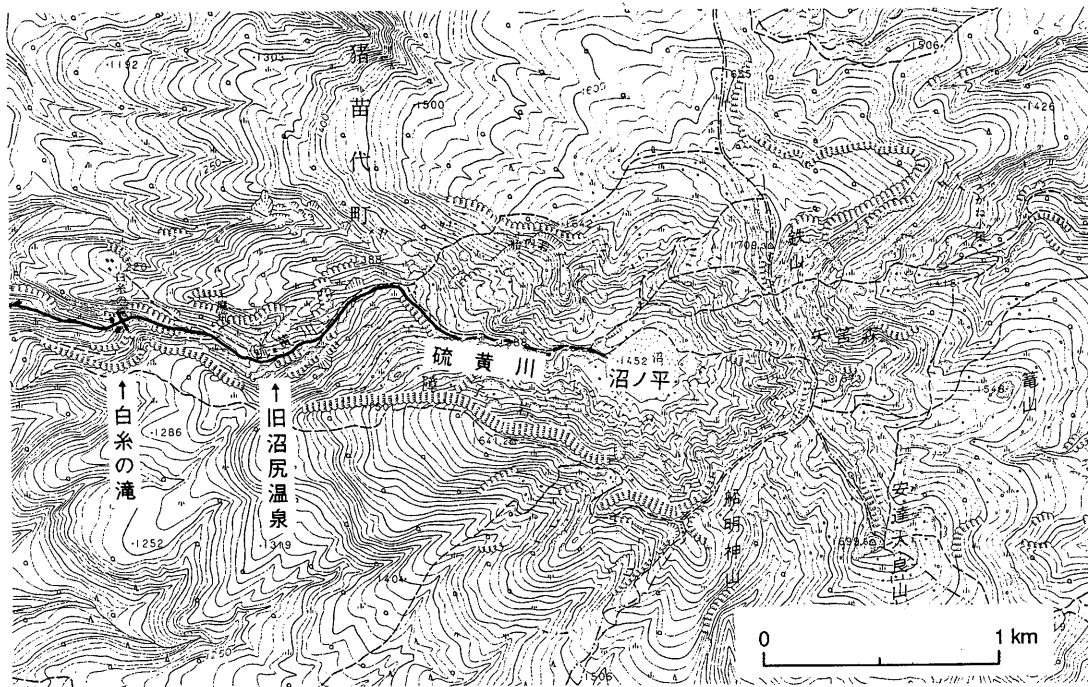
Immediately after the 1900 eruption (a; contour interval=5 m) and present (b ; contour interval=10m) .

## 2. 被害

沼ノ平にあった精錬所の建物は新噴火口にのみ込まれた。83名いた従業員の大半が噴火口付近や沼ノ平と旧沼尻温泉 (現在の沼尻温泉ではなく、泉源の地点: 第2図) の間の硫黄川の渓谷で死亡した。火口から約 2 km 西方の旧沼尻温泉では、この噴火にともなって起きた爆風により、家屋の山側の面に砂泥が吹き付けられ、屋根を損傷したり 1-2 の小屋が倒壊したりする被害があった。

## 3. 何が起きたか

軽石等のマグマ起源の噴出物は記載されておらず、水蒸気爆発であったと判断される。井上<sup>6)</sup>は沼尻付近では谷底の樹木は被害を受けているのに谷の上部の樹木は被害を受けていないことを、金原<sup>9)</sup>は沢の中腹より下の部分にのみ火山灰の堆積が多いことを記載し、両者とも爆風は谷底に沿って流下したと考えた。また震災予防調査会報告<sup>7)</sup>に引用された福島県の報告では、硫黄川の渓谷沿いで発見された遺体は、いずれも著しい火傷を負っており、火砕サージの様な現象が起こったものと考えられる。火砕サージは沼ノ平から西に流れる硫黄川の深い谷地形 (第2図) に規制されて流走したのであろう。ただし沼尻温泉において爆風が高温であったかどうかについての記録は残っていない。白糸の滝付近に堆積した火山灰は火砕サージから降下堆積した可能性がある。



第2図 沼ノ平火口周辺の地形  
 Fig. 2 Topography around the Numanotaira crater.

#### 参 考 文 献

- 1) 坂口圭一 (1995): 「二本松」地域の地質, 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 地質調査所, 79.
- 2) 気象庁 (1991): 日本活火山総覧 (第2版), 483.
- 3) 金原信泰 (1899a): 安達太郎山異状, 地質雑, vol. 6, 335-336.
- 4) 金原信泰 (1899b): 安達太良山 (岳山) 又々異状を呈す, 地質雑, vol.6, 472.
- 5) 金原信泰 (1900a): 安達太郎火山の噴火, 地質雑, vol.7, 293-295.
- 6) 金原信泰 (1900b): 安達太郎火山の破裂に就て, 地質雑, vol.7, 427-433.
- 7) 井上禧之助 (1900): 岩代国沼尻山破裂実況, 地学雑, vol.12, 457-466.
- 8) 震災予防調査会 (1901): 沼尻山噴火, 震災予防調査会報告, no.35, 117-119.
- 9) 震災予防調査会 (1917): 日本噴火志 上編, 震災予防調査会報告, no.86, 236.